

特別展示

タイルは語る

あの日の記憶
●
創造の力ケラ



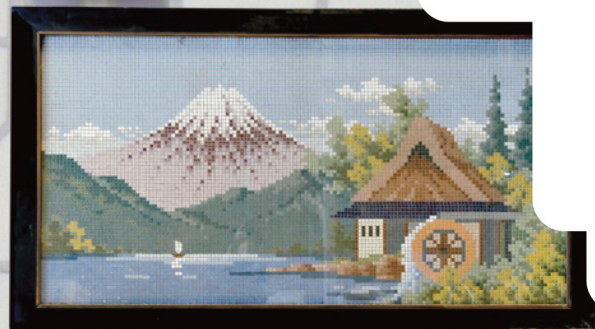
2



5



5



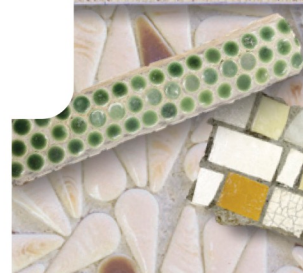
7



8



4



4



3



6



2

2026年 2月 11日(水・祝) ~ 5月 24日(日)

多治見市モザイクタイルミュージアム 3F ギャラリー

休館日 : 月曜日 (休日の場合は翌平日)

開館時間 : 午前9時~午後5時 (入館は午後4時30分)

観覧料 : 一般 500 円、団体 400 円 (特別展示料金)

高校生以下無料、障がい者手帳をお持ちの方及び付き添い 1 名様無料

主催 : 多治見市モザイクタイルミュージアム

協力 : 東洋学園大学 東洋学園資料室、龍城温泉ファンクラブ、中谷博、本間智希

本展では、新収蔵品をはじめ、これまで展示する機会の少なかったレスキュータイル（解体現場などから救い出されたタイルの断片）や、建築を彩ってきた作家によるタイル壁画の断片、モザイク作品を紹介します。

かつての建物で人々の暮らしを彩っていたタイルたちは、静かにその記憶を語りかけてくれます。

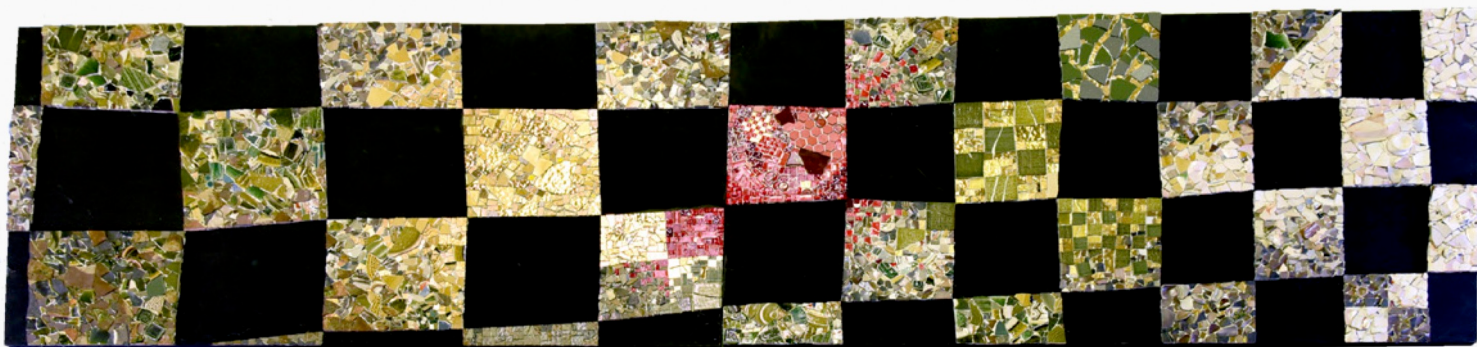
モザイクタイルミュージアムの源流には、1万点を超える資料を収集した「モザイク浪漫館」の存在があります。1990年代初頭、町内の有志によって始まったタイル資料収集活動を基盤とし、その膨大な資料はミュージアムの開館に伴い受け継がれました。

収蔵品は、タイルのピースや見本台帳、タイルでつくられた浴槽・流し台、建物の壁や床の一部に至るまで多岐にわたります。本展では、特に建物の解体現場から救出された部材に光を当て、当時の写真資料とともに、タイルが人々の暮らしの中でどのように息づいていたのかを追体験します。

さらに、建築家 今井兼次、洋画家 脇田和 による芸術性豊かなタイル作品の断片、そして多治見市を拠点に活躍し急逝したモザイク作家 曾根研 の大作（新収蔵品）と関連写真も公開します。

廃材として消えゆくはずだったタイル片や、創作の背景を伝える資料が、いま「語り部」として甦ります。

タイル資料が持つ価値と魅力をあらためて感じていただける機会となれば幸いです。



曾根研《warped puzzle》2017年

関連イベント

ワークショップ「タイルを発掘してモザイク作品をつくらう！」

さまざまなタイルの中からお気に入りのタイルを発見して、自分だけのモザイク作品をつくりましょう。
今回は木板にタイルを組み合わせて作品をつくります！

日時：2026年3月22日（日）

午前の回 10:30-12:00 午後の回 13:30-15:00

場所：多治見市モザイクタイルミュージアム 2F 特設会場

詳細は HP にて
お知らせします！



表面掲載資料

- | | |
|--|---|
| 1 旧 柳湯（京都府）内装（撮影：林宏樹） | 5 旧 龍城温泉（現 龍城さうな）内装タイル 上：1933年頃 下：1950 - 1963年頃 |
| 2 旧 柳湯（京都府）壁面モザイク画 部分 1961年頃 | 6 モザイクタイルアート 1950 - 1990年頃 |
| 3 今井兼次 旧 東洋女子短期大学（現 東洋学園大学）陶壁《永遠の友情》部分 1961年 | 7 モザイクタイルアート 1950年以降 |
| 4 浴室壁面モザイク画および浴槽タイル 部分（個人宅） 1960年頃 | 8 脇田和 ホテルリョウキャッスルロビーモザイク壁画《昼と夜の対話》部分 1969年 |



モザイクタイルミュージアム
MOSAIC TILE MUSEUM
Tajimi

〒507-0901 多治見市笠原町2082番地の5
TEL 0572-43-5101 FAX 0572-43-5114
<http://www.mosaic-tile-museum.jp>



アクセス＝

【公共交通機関】

名古屋から、JR中央本線下り、
多治見・中津川方面行き、多治見駅下車。
多治見駅から東鉄バス（約20分の乗車）、
東草口行き、羽根行きにて、
モザイクタイルミュージアム下車。

【自動車】

多治見ICから約25分。
土岐南多治見ICから約15分。
※駐車場は笠原交流センターなどの合同駐車場です。

